

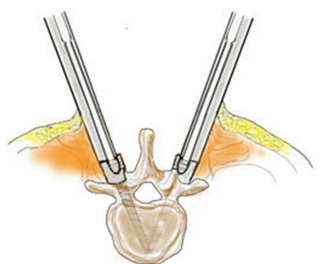
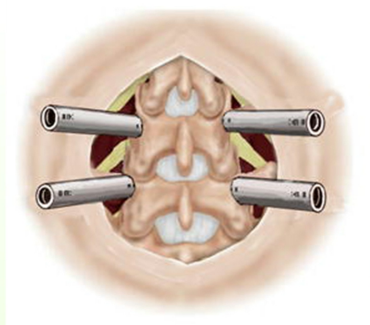
③ 低侵襲脊椎固定術

不安定性のある脊椎骨折やすべり症は、スクリューを使って脊椎を固定する必要があります。

従来の方法は骨折部分やすべり部分の上下まで大きな皮膚切開を設けて、脊椎に数本のスクリューを刺入し、これらをロッドと呼ばれる金属の棒に接続して脊椎を固定します。脊椎を大きく展開する必要があるため骨の周囲の筋肉を損傷せざるを得ません。これは術後の鈍痛の原因になります。

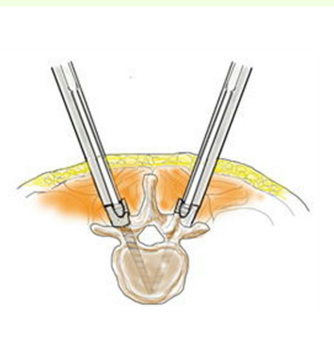
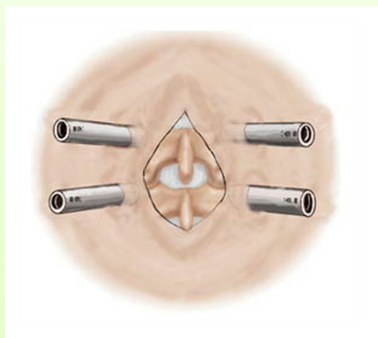
当センターでは筋肉をできるだけ損傷させないために経皮的にスクリューを刺入してできるだけ背部の筋肉の損傷を低減しています

従来の固定術のスクリューの刺入方法



術野を大きく
展開する必要がある

経皮的椎弓根スクリューによるスクリュー刺入



術野の展開が
少ない

脊髄・脊椎センター受診方法

当センターは予約の必要なく受診が可能です。下記受付時間内にお越しください。急な変更・休診の場合もありますので、事前にご確認ください。

電話079-252-5235(代表) FAX079-252-3425(地域連携室)

	月	火	水	木	金	土
午前 (9時~12時)					眞鍋	
午後 (15時~18時)		眞鍋		眞鍋		